

協賛企業賞

産地移動について

赤坂小学校 武笠 楓子

私は、日本の産地が地球温暖化によって、移動してしまうことを知り、くわしいことを知りたくて産地移動について考えた。

今、地球温暖化が原因で、果物、野菜、魚などの産地が移動してしまう産地移動が起こっている。例えば、寒すぎて、お米の生産が無理だと言われていた北海道。今では、北海道でお米を育てるのが一番いいという。ふぐの産地、福岡では、全くと言っていいほど、ふぐはとれないのに、愛知で大量にふぐがとれたりしている。このように、地球温暖化が続いたら、数十年後には、日本の食生活も変わってしまうという。

私は、自分ができることを二つ考えた。一つ目は、地球温暖化が進まないように電気、エネルギーを使う量を工夫すること。例えば、水はこまめにとめる、近くに出かけるときは車を使わないなど、身近でできることはたくさんある。二つ目は、自然とふれ合う体験に参加して、自然の大切さを学ぶこと。例えば、川で遊んで、魚などもふれ合って、命の大切さを知る。他にも、山で鳥の鳴き声や、様々な動物の生きている音を聞いて、この自然をのこしたいという気持ちや、様々な動物の生きている音を聞いて、この自然をのこしたいという気持ちや、大人になっても、エネルギーなどのむだ使いはしないし、自然を大切にしようという気持ちや、森林の減少をなくすることもできるかもしれない。このように少しの工夫や努力、体験をするだけで、地球温暖化や産地移動が進むのを止めることもできる。

私は、今まで地球温暖化のことをテレビなどで見かけても、大変だなあと、他人事のようにとらえていた。ましてや、食生活と地球温暖化につながりがあることも全く知らなかった。しかし今、産地が移動してしまう、日本の食生活もいずれば変わってしまうなどの、大変なことになっていると知り、他人事のように思っていたことが、私達一人一人がもっと深く考えなければならぬと、強く思うようになった。地球温暖化は、私達の将来の命にもかかわる問題ということを呼びかけていき、みんな、みんなの地球を守っていききたいと思う。